

□～アクティブラーニング研修会～□

第1学年（中学校国語科）学習指導案

令和元年10月29日6校時

国頭村立国頭中学校

1年B組 計〇〇名

本部町立本部中学校

外部指導者 石川 清一

1 単元名 古典に学ぶ

2 単元目標

○古文の仮名遣いやリズムに注意して音読し、古典の世界にふれる。

□学習指導要領 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

ア（ア）「文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読して、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れること。」

○現代とのつながりを考えて読み、物語のおもしろさについて、自分の意見をもつ。

□学習指導要領 読むこと ア「文脈の中における語句の意味を的確にとらえ、理解すること。」

□学習指導要領 読むこと ウ「場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。」

3 本単元における言語活動

読むこと ア「様々な種類の文章を音読したり朗読したりすること。」

4 単元について

（1）教材観

中学校の古典の学習は、生徒が古典に親しみをもつことをねらいとしている。『竹取物語』は、平安時代に成立した日本最古といわれる物語であり、『かぐや姫』の物語として親しまれている物語である。『かぐや姫』を想起しながら、生徒が興味・関心をもって読むことができる作品である。不思議な誕生と成長の末に別世界に帰還してしまう姫の設定や求婚した貴公子たちの冒険譚を含む展開の面白さ、不死の薬を燃やす物語の結末など、生徒は昔話として断片的に覚えている『かぐや姫』との違いや新たな発見を楽しみながら読むことができる。また、美しいものへのあこがれ、愛するものを失う悲しみ、人間のずるさなど、現代に通じる人間の姿を感じることができる物語でもある。古典に由来する言葉が現代に受け継がれていることを知ることができる点からも、古典の入り口としてふさわしい教材である。

（2）生徒観

省 略

（3）指導観

第1学年の古典の学習では、文語のきまりや訓読の仕方を知りつつ、音読を通して古文や漢文独特のリズムを味わい、古典の世界に触れること、古典には様々な種類の作品があり、それ

を知るということを指導事項としている。単元を通して音読を楽しませ、基本的な文語のきまりを習得させたい。

中学校で初めて古典を学習する生徒たちに、古典は遠く離れた存在ではなく、現代にも通じる人の思いが描かれており、身近な存在であるということを授業を通して感じ取らせることが出来たらと思う。また、語句や表現の特徴に注意して原文と現代語訳を読み、展開やあらすじを理解させ、『竹取物語』の作品を通し、現代に通じる人々の考え方やものの見方について考えさせたい。

(4) 校内研修テーマとの関わり

省 略

(5) 単元の評価規準

①国語への関心・意欲・態度

音読をとおして古典の世界にふれようとしたり、物語のおもしろさについて、自分の意見をもとうとしたりしている。

②読む能力

現在も読まれている昔話とその元になった古典の現代語訳を読み比べ、その内容の違いや古文の特徴を紹介するために、必要な情報を読み取って情報を読み取っている。

③言語についての知識・理解・技能

ア) 古文の仮名遣いやリズムに注意して音読し、古典の世界にふれている。

イ) 古典には様々な種類の作品があることを理解している。

5 単元指導計画（○時間）

省 略

6 本時の学習【1／5時間】

(1) 本時のねらい

仮名遣いやリズムに注意して音読し、物語のおおまかな内容を知る。

(2) 本時の評価規準

読むこと 仮名遣いやリズムに注意して音読し、物語の概要を理解している。

(3) 展開（1単位時間で完結する授業の徹底）

	学習活動	指導上の留意点	学習活動に即した具体的な評価規準（評価方法）・生徒指導の三機能・準備物
導入 8分	1 大型立体絵本『かぐやひめ』を見せる。	※簡単な自己紹介 ○生徒への興味関心を促し、絵本の『かぐやひめ』のタイトルを覆い、暫くしてタイトルを剥がし、幼少の頃に読んだことを想起させる。 ※中学校最初の「古典」なので興味・関心を高めさせたい。	□共感的人間関係 関：中学校で初めての古典との出会い

	<p>2 『かぐやひめ』の概要を生徒に聞く。</p> <p>3 「古典」とは、どんなものを指すか聞く。</p>	<p>○殆どの生徒が読んだり聞いたりしているだろうが、知らない生徒もいるであろう。</p> <p>Q発問： 「古典」とは、どんなことを指しますか？</p> <p>A：予想される答え</p> <p>△昔のもの。古いもの。昔の物語やお話。</p> <p>△『源氏物語』や『万葉集』、『奥の細道』等。</p>	<p><input type="checkbox"/>自己存在感</p> <p><input type="checkbox"/>自己決定</p> <p>関：古典に関心を持ち、進んで古典に触れようとしている。</p>
<p>めあて：仮名遣いやリズムに注意して音読し、物語のおおまかな内容を知ろう。</p>			
	<p>4 学習のめあてと流れを表示し、学習の見通しを知る。</p>	<p>○めあてと流れを表示し、学習の見通しをもたせ、声に出して全員に確認させる。</p>	<p><input type="checkbox"/>共感的人間関係</p>
<p>展 開 30 分</p>	<p>5 『竹取物語』について確認する。</p> <p>6 『竹取物語』にある「原文」「現代語訳（口語訳）」「歴史的仮名遣い」「現代仮名遣い」について説明する。</p> <p>7 教師が本文の「原文」を範読する（一・四・五場面）。</p>	<p>Q：発問 『竹取物語』って聞いたことがありますか？ 知っていますか？</p> <p>A：予想される答え</p> <p>△初めて聞いた。知らない。</p> <p>『かぐや姫』の話なら聞いたことがある。</p> <p>△きれいな女の人が出てきて、月に帰ってしまう話。</p> <p>※『かぐや姫』と同内容である。</p> <p>Q：発問 いつ頃の話だと思いますか？</p> <p>△奈良・平安・鎌倉・室町・安土桃山・江戸時代等</p> <p>Q：発問 作者は誰ですか？</p> <p>△作者はなかなか応えられないであろう。作者不詳。</p> <p>○5つの場面に分かれている。</p> <p>一の冒頭場面（頁105）、四の場面（頁110）、五の場面（頁111）の上段が「原文」、下段の青色表記が「現代語訳（口語訳）」、原文の^カカ^カ表記が「現代仮名遣い」、^カカ^カ表記の右側が「歴史的仮名遣い」であることを板書で表記し、全員で読んで確認する。</p> <p>○原文箇所の歴史的仮名遣いと現代仮名遣いの違いに気づかせたい。</p>	<p><input type="checkbox"/>自己存在感</p> <p><input type="checkbox"/>共感的人間関係</p> <p>関：音読をとおして古典の世界にふれようとしている。（行動の観察）</p> <p>言：文語のきまりや音読の仕方を知り、古文を音読して、古文特有のリズムを味わう。</p>

	8 グループで「原文」読みの練習をする。	○歯切れ良く元気よく声に出して読ませたい。自信がないと口ごもりがちなので、口形に注意しながら読ませる。	読：仮名遣いやリズムに注意して音読し、物語の概要を理解している。 (グループの観察) <input type="checkbox"/> 自己決定
	9 グループで代表読みをする。	○原文の三場面の中から、一場面を選び、グループの代表一人、積極的に読ませたい。	言：仮名遣いやリズムに注意して音読し、古典の世界にふれている。 (行動の観察) <input type="checkbox"/> 共感的人間関係
	10 歴史的仮名遣いや古典のことばに注意して、教師のあとについて、全員で音読する。	○仮名遣いやリズム、句読点に注意して、すらすら読めるようにしたい。	
ま と め 12 分	11 本時の板書(表示)事項をワークシートにまとめる。 12 めあてと連動したまとめ・ふり返しをする。 13 自己評価の記入 14 次時の予告	○ワークシートの活用。 ○『竹取物語』のおおまかな内容が書けているか、机間巡視で確認。 ○数人の生徒へ発表させる。 ○	<input type="checkbox"/> 自己決定 関：ワークシートで大まかな内容が書けている。

(4) 授業と連動した「宿題」
省 略

(5) 板書計画(別紙で大きく示しても良い)

省 略
○児童の思考過程に沿った構造的な板書。○写真で提示。 ○1単位時間の流れがわかるように、板書内容を整理し記載する。

指導案作成 参考資料

- 中学校学習指導要領解説、国語編 平成29年7月 文部科学省
- わかる授業 SupportGuide 平成25年10月 沖縄県教育委員会
- 学力向上推進プロジェクト 平成30年3月 沖縄県教育委員会
- 「問い」が生まれるサポートガイド 平成31年度版3月 沖縄県教育委員会
- 平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた中学校授業アイデア例
- 中学校国語科 学習指導要領 新旧対照表 他